

市立図書館サービスの現況と中央図書館の課題

平成 18 年 9 月 19 日

第 1 回 （仮称）中央図書館整備基本計画検討委員会資料

一宮市図書館サービスの課題

市の状況

- 【市町合併】
◇ 一宮市・尾西市・木曽川町の2市1町合併により市域拡大
- 【産業】
◇ 産業構造の変化 ◇ 郊外店舗の立地による中心市街地の疲弊
- 【人口構造・家族形態】
◇ 少子・高齢化の進行 ◇ 核家族化の進展 ◇ 外国人登録者数の増加
◇ 旧市街地におけるマンション建設による新住民の流入
- 【観光資源】
◇ セタまつり ◇ 山内一豊関連の史跡 ◇ 138タワーパーク

一宮市図書館サービスの現況と問題点

- 【サービス態勢・内容】
◇ 6館及び移動図書館を運営
◇ 子ども文化広場は(財)一宮市地域文化広場管理公社が運営
◇ 豊島図書館が館長・事務局長を配置する他、移動図書館を運営
◇ 豊島・尾西・木曽川・庶務の4つのサービスグループを形成し、合併前の3地区ごとにサービスを展開
◇ 豊島・尾西・木曽川の3館のサービスが横並び
◇ 司書は臨時職員を含めて25名
◇ 異動の関係で、長期にわたり経験を積んだスタッフが不足
◇ 身体障害者に対してのみ無料の郵送サービスを実施
◇ 図書館行事・集会は子どもを主な対象としたものが多い
◇ サービス対応言語は日本語のみ
◇ 広域貸出を行っているのは稲沢市のみ
- 【市町合併後の対応】
◇ 中央館は豊島図書館 ◇ 図書館蔵書管理システムを統一
◇ 貸出カードを統一 ◇ 移動図書館のステーションを追加
- 【資料】
◇ 豊島+子ども文化広場、尾西+尾西児童で役割分担
◇ 豊島図書館にせんいコーナーを設置
- 【利用】
◇ 成人の登録率が低く、特に60歳以上の登録率が低い
◇ 児童図書、視聴覚資料の利用が多い(回転率が高い)
- 【施設・設備】
◇ 豊島(築40年)、尾西(築25年)、尾西児童(築26年)、地域文化広場(築26年)は老朽化
◇ 豊島・尾西では収容能力が限界
◇ 高度情報化に対応していない(各館にインターネット端末は1つずつ)

関連施策

- 【国の施策】
◇ 多様化・高度化する生涯学習の支援拠点としての図書館
◇ 情報化への対応(電子図書館) ◇ 子どもの読書活動の推進
◇ 地域の情報拠点としての図書館(課題解決支援)
- 【県の施策】
◇ 生涯学習基盤の整備に向けた関連施設の拡充
- 【市の施策】
◇ 多種多様な生涯学習機会の充実
◇ 生涯学習関連施設の機能拡大に向けた中央図書館の実現
◇ 国際理解のための学習機会の充実 ◇ 子どもの読書活動の推進

中心市街地活性化から求められる課題

中心市街地活性化の方策として、人々が生活する上でのサービスの集積・提供を図ることが必要であり、そのサービスの集積・提供の一端として『図書館など公共機能の充実』が必要である

現時点での図書館サービスの課題

市域全体のネットワークの充実が必要

- 市域全体として一元的なサービスの展開が必要
- 中央図書館を中心としたネットワークの形成が必要
- 中央図書館整備にあわせ、他館の機能、蔵書構成、サービスの見直しが必要
- 他の図書館や学校、関連施設との連携を充実

市民の多様な学習ニーズへの対応の充実が必要

- 中央館としての高度で専門的なサービスの充実が必要
- 高度情報化への対応を図る
- 国際化への対応、国際理解に向けた機会の充実を図る
- 高齢者の図書館利用を促進するような施策が必要
- 図書館サービスから阻害されがちな人々への対応の充実
- 市民の多様なニーズに対応できるスタッフが必要(IT、ビジネス、福祉、多言語等)

まちの課題の解決に向けた情報提供の充実が必要

- 少子高齢化、産業構造の変化、中心市街地の疲弊といった地域課題の解決に向けた情報提供の充実
- せんいコーナーの設置以外のまちの活性化に向けた施策が必要

市民ニーズ

(利用者アンケート・市民アンケートにより把握)

中央図書館の基本方針
(第2回で検討)

駅前立地における図書館

- 【尾張一宮駅の特性】
- 市内で最多の駅利用者数
 - 市内で最大の商業集積地
 - 一宮市役所等の公共公益機能が集積
 - 尾張の一の宮である真清田神社の最寄り駅

【他の駅前図書館の事例】

- 静岡市立御幸町図書館(静岡県、静岡鉄道新静岡駅)
ビジネス支援サービス
多言語サービス
郷土の産業・企業に関する資料の提供
- 結城市立ゆうき図書館(茨城県、JR結城駅)
貸出用ノートパソコン110台(インターネット、DVD閲覧用)
オンラインデータベースの無料提供
雑誌タイトル数400誌以上

～ 目 次 ～

1 計画策定の趣旨.....	1
1-1 計画策定の目的.....	1
1-2 計画の背景とこれまでの経緯.....	1
2 現況把握	2
2-1 市の概況.....	2
2-1-1 歴史	2
2-1-2 交通	2
2-1-3 産業	3
2-1-4 観光資源.....	4
2-1-5 人口	4
3 中央図書館の取り組み課題	6
3-1 図書館・生涯学習振興施策の流れ	6
3-1-1 国の施策の流れ.....	6
3-1-2 愛知県の施策の流れ	7
3-1-3 一宮市の施策の流れ	7
3-2 一宮市図書館サービスの現況.....	10
3-2-1 一宮市立図書館の沿革.....	10
3-2-2 施設概況.....	10
3-2-3 サービス体制	13
3-2-4 蔵書構成.....	15
3-2-5 利用状況.....	16
3-2-6 図書館情報システム	17
3-2-7 市外とのネットワーク	17
3-2-8 学校支援.....	17
3-3 駅ビル建替え構想.....	19
3-3-1 尾張一宮駅周辺地域再生整備事業	19
3-4 市民要望.....	22
3-4-1 『豊島図書館利用者アンケート調査』（平成 17 年 2 月実施）	22
3-4-2 『第 6 次一宮市総合計画市民アンケート調査』（平成 17 年 11 月実施）	22
3-4-3 『（仮称）中央図書館整備基本計画に関するアンケート調査』（平成 18 年実施）	22
3-5 中央図書館整備にあたっての課題	23

3－5－1 現行図書館の問題点と課題	23
3－5－2 駅ビル図書館としての課題	25

1 計画策定の趣旨

1－1 計画策定の目的

(仮称) 中央図書館整備基本計画においては、一宮市（以下、「本市」という。）が尾張一宮駅ビルに整備を計画している中央図書館のあるべき図書館像、役割、機能、サービス、規模、事業方策等の具体的検討を行うことを目的とする。

1－2 計画の背景とこれまでの経緯

近年、社会においては、情報化、グローバル化、少子・高齢化といった様々な変化が生じている。社会のこうした変化や成熟化に対応するため、生涯学習の重要性が認知され、多様な学習機会の提供が図られている。それに伴い、図書館には生涯学習拠点としての役割が期待され、その扱う情報の質・量も変化しつつある。そして、従来の図書館サービスの提供に加えて、新たな地域・市民ニーズへの対応が望まれている。

現在の一宮市立豊島図書館は、昭和 41 年 4 月の開館以来約 40 年間にわたり市民や組織・団体等の利用者に対し多様な情報・資料・学習機会等を提供し、地域において親しまれてきた。しかし、施設の老朽化や収容能力の不足等の問題を抱えていること、地域や市民の多様なニーズに対応する必要があることなどから、図書館サービスの向上に向けた改善が求められている。

また、本市においては中心市街地活性化基本計画が策定され、尾張一宮駅周辺において中心市街地活性化構想による各種事業が推進されている。この構想においては、尾張一宮駅ビルを核とした中心市街地における新たな賑わいの形成が求められており、老朽化した尾張一宮駅ビルの建て替えに併せ、豊島図書館の移転・機能拡充となる中央図書館などの公共施設と商業・業務などの民間施設を複合化した新しい駅ビルの整備も視野に入れた検討が行われている。

2 現況把握

2-1 市の概況

一宮市は、愛知県の北西部にあり、名古屋市と岐阜市のほぼ中間に位置する。

2-1-1 歴史¹

平安時代に真清田神社が尾張の国における巡拝の「一の宮」であったことから、その門前町を中心とした地域が一宮と呼ばれ、現在に至る。江戸時代には、周辺が綿作地帯として発展したこと、また定期市（三八市）が開設され、繊維商品を中心とした取引が行われたことなどにより、繊維都市一宮の基盤が築かれることとなった。

さらに、明治時代には織物生産が工業化されたことにより、絹綿交織物、そして毛織物の産地として発展した。その後、大正時代になると、一宮駅の開業、私鉄の開通等の鉄道の発展により、尾張一宮駅前には織物問屋街が形成され、繊維産業がますます発展した。そして、昭和初期には総合繊維産業都市として知られるに至った。しかし、近年では他産業が発展し、繊維産業中心都市から産業構造が変化しつつある。

現在の本市のかたちとなったのは、平成 17 年 4 月 1 日の市町合併からであり、一宮市・尾西市・木曽川町が合併し、新生「一宮市」が誕生した。

2-1-2 交通

公共交通機関の鉄道は、JR 東海道本線、名古屋鉄道名古屋本線と名古屋鉄道尾西線の 3 路線が走っている。



(出典：一宮市 HP 掲載資料をもとに作成)

図 1 市内交通網と図書館配置

¹ 以下の説明については、特記なき限り『一宮市教育委員会五十年史』による。

また、バスは、名鉄新一宮駅を基点に名鉄バスが四方へ路線を伸ばしている他、市内の公共機関を巡回するiーバス²が運行されている。

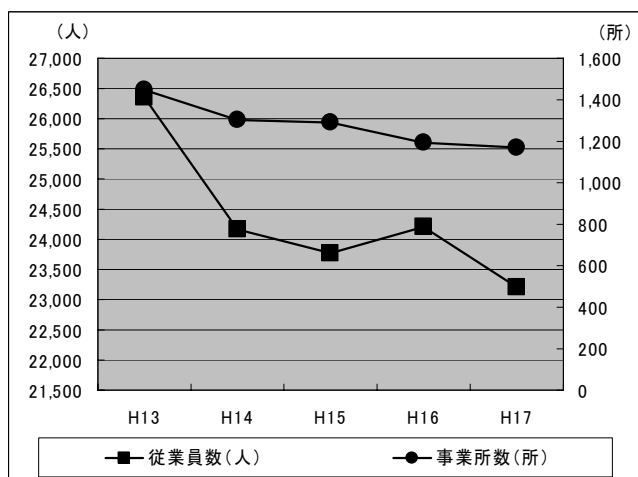
道路は、名神高速道路、東海北陸自動車道の2本の高速道路のほか、2本の国道が走っている。

2-1-3 産業

本市では、毛織物等の繊維産業を基幹に商工業が発展してきたため、全国平均と比較すると第2次産業の占める割合が多い。しかし、近年では第3次産業の占める割合が高まっている。

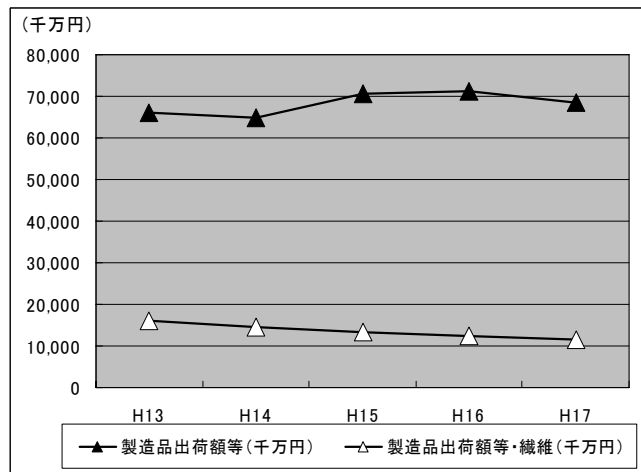
工業については、市内事業所数、従業員数の推移は図2、製造品出荷額等の推移は図3の通りであり、従業員数、事業所数、繊維製品出荷額の減少が見られる。

また、製造品出荷額等の構成については図4の通りで、「繊維」の占める割合は16.8%と、「電気・情報・電子」等の繊維以外の割合が多い。工業の分野での構造転換が見られ、地場産業都市としての性格が弱まっていることが分かる。



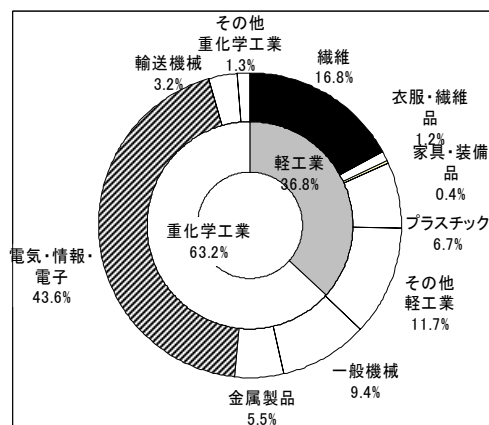
(出典：『一宮市の工業 平成17年度』をもとに作成)

図2 市内従業員数・事業所数の推移(平成17年度)



(出典：『一宮市の工業 平成17年度』をもとに作成)

図3 製造品出荷額等の推移(平成17年度)



(出典：『平成17年度 一宮市の工業』より)

図4 製造品出荷額等の内訳(平成17年度)

² 詳細については本市 HP

<http://wwwsv.city.ichinomiya.aichi.jp/division/chiikifureai/guide/i-bus/>
参照のこと。

また、商業については、繊維工業製品を中心とする卸売業を中心に発展してきたが、郊外店舗の立地等により、中心市街地の商業拠点性は低下傾向³にある。

2-1-4 観光資源

市内で人が生活し始めた縄文時代以降、弥生時代、古墳時代の遺跡が数多くある。また、地域で守られ伝えられてきた伝統芸能も各地に遺されている。さらに、桃花祭や石刀祭、七夕まつりには市外からも多くの人々が訪れる。また、山内一豊の出生地でもあり、関連する史跡が存在する。NHK 大河ドラマにも取り上げられたことから、観光協会や商工会などにより、関連した観光情報の提供が積極的に行われている。

その他、国営木曽川三川公園内 138 タワーパークには、高さ 138 メートルの展望タワー「ツインアーチ 138」がある。

2-1-5 人口

1) 推移と将来予測

一宮市の人口と世帯数は、平成 18 年 4 月時点で 378,725 人、135,786 世帯で、ともに漸増傾向にある。しかし、平均世帯員数は 2.79 人と漸減傾向にあり、核家族化が伺える。

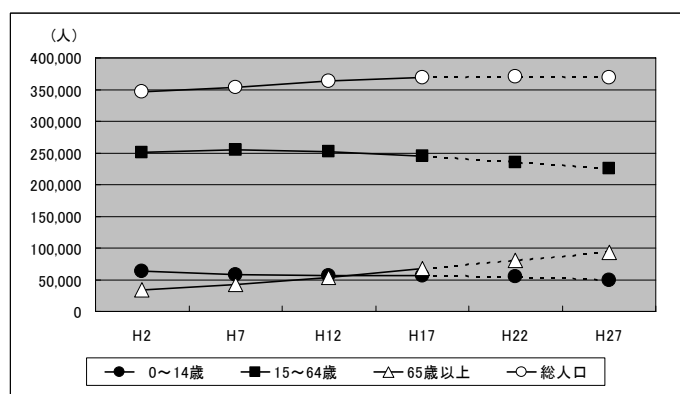
平成 15 年度頃までは丹陽町や大和町等の旧市街地周辺部の区画整理が進んだ地区での人口増が見られていた。しかし、近年では旧市街地でのマンション建設が進んでおり、その影響による人口増が見込まれることから、新旧住民の交流も課題になると考えられている。

高齢化率については全国平均よりも低い⁴が、65 歳以上人口が人口全体の 20% 近くを占めており、その数は平成 27 年までに現在の約 1.4 倍に増加すると見込まれている（図 5 参照）。こうした人口構造や家族形態の変化の中で、ひとり暮らし・寝たきり老人の増加等の問題も顕在化すると考えられている。

2) 外国人登録者数の推移

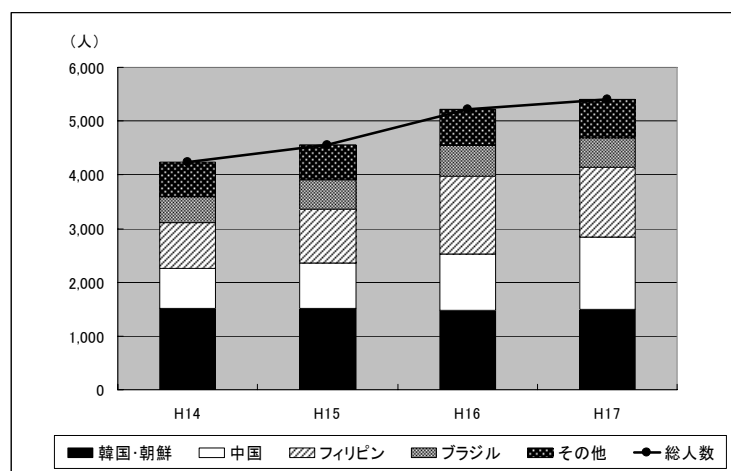
外国人登録者数は 5,394 人⁵と愛知県のみ市町村の中で 8 番目⁶に多い。

過去から登録者数が多いのは、韓国・朝



(出典：『新市建設計画をもとに作成』)
※ H17 以降は推計値である。

図 5 年齢別人口の推移と予測



(出典：愛知県 HP 掲載データをもとに作成)

図 6 市内外国人登録者数の推移

³ 『新市建設計画』p.6

⁴ 本市の高齢化人口比率は 17.8%であるのに対し、全国平均は 19.5%（平成 17 年時点）

⁵ 平成 17 年 12 月時点データ

⁶ 県内 66 市町村中 8 番目

鮮国籍であったが、近年では中国国籍、フィリピン国籍が増加傾向にある他、ブラジル国籍も多い。そのため、ハローワーク等においては、特別援助部門を設置し、外国人求職者への対応もなされている。

3 中央図書館の取り組み課題

3-1 図書館・生涯学習振興施策の流れ

近年の国・県・市による図書館施策、生涯学習振興施策の取り組み状況は以下の通りである（図 7 参照）。

3-1-1 国の施策の流れ

生涯学習時代の到来と共に、図書館の生涯学習拠点としての役割も見直され、それに応じた図書館行政が行われてきた。昭和 63 年には社教審施設分科会が『新しい時代（生涯学習・高度情報化の時代）に向けての公共図書館の在り方について（中間報告）』を発表、図書館を「生涯学習を進める上で最も基本的、かつ重要な施設」と位置づけ⁷ている。また、平成 4 年には、生涯学習審議会社会教育文化審議会により、公立図書館の健全な発展に資することを目的に『公立図書館の設置及び運営に関する基準について（報告）』が発表された。これらの報告等を通じて、図書館を生涯学習の中心核として位置づける施策が展開された。

また、平成 8 年には、同審議会は『社会教育主事、学芸員および司書の養成、研修等の改善方法について』を明らかにして司書養成教育内容の改善を提言⁸している。

さらに、平成 12 年には図書館法 18 条に基づき『公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準（報告）』が発表され、翌年に制定施行された。同基準においては、「図書館機能を十分発揮できるだけの種類・量の資料整備に努めること」、「就職、転職、職業能力開発、仕事のための資料・情報の提供に努めること」などが強調され、併せて「地方公共団体の行政資料等の情報」、「市民生活に必要な資料や情報」等の充実を図るべきとされた。そして、これらの機能を活かすために、IT を活用した検索システムの整備、レファレンスサービスの充実、専門的サービスを実施する専門職員の確保などが求められている。

また、日本図書館協会等も政策提言を行っており、同協会町村図書館活動推進委員会は『21 世紀の町村図書館振興を目指す政策提言 L プラン 21「図書館による町村ルネサンス」』を発表し、その中で図書館の理念と働きを提言すると共に、設置と運営に関する数値基準をまとめた。

さらに同年には『2005 年の図書館像～地域電子図書館の実現に向けて～』が文部省の地域電子図書館構想検討協力者会議によりまとめられ、図書館の情報化対応の方向性も示されている。その後、平成 17 年には『地域の情報ハブとしての図書館－課題解決型の図書館を目指して－』が、平成 18 年には『これからの図書館像－地域を支える情報拠点を目指して』がまとめられるなど、情報拠点としての公立図書館サービスの在り方が検討されるようになった。

また、近年子どもの読書離れが問題となっていることから、平成 14 年には、読書活動を通じた子どもの健やかな成長を目的に『子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画』が制定された。同計画では、「子どもの読書活動を推進していくためには、公立図書館に豊富で多様な資料を整備していくこと」や「司書は子どもの読書活動を推進する上で極めて重要な役割を果たすこと」、「公立図書館が学校図書館と緊密に連携・協力していくこと」が地方自治体に求められた。その他、平成 17 年には『文字・活字文化振興法』が制定され、公共

⁷ 小黒浩司『JLA 図書館情報学テキストシリーズ 12 図書及び図書館史』日本図書館協会、2000 年、p.119

⁸ 同上

図書館・学校図書館の司書や図書館資料の充実、情報化の推進などを自治体に求めている。

3-1-2 愛知県の施策の流れ

愛知県においては、平成 7 年に生涯学習推進本部が設置され、翌年に『愛知県生涯学習推進構想』が策定された。また、同年に生涯学習審議会が『21 世紀を展望した愛知県の生涯学習振興の基本方策について』の答申を行い、それを受けて、愛知県における生涯学習体制が整備され、本格的な生涯学習活動がスタートすることとなった。同答申においては、生涯学習の基盤整備は、「地域における生涯学習活動を発展させる方向で推進させることが重要」とされており、公民館や文化施設等と並んで図書館が生涯学習関連機関として位置づけられ、その拡充が求められている。

さらに、平成 11 年には『愛知県における生涯学習情報ネットワークの在り方について』で、生涯学習センターにおいてどのような学習情報システムを構築するか、そのためにどのような連携・協力が必要かについての提言が行われた。その後、平成 12 年には愛知県生涯学習情報システムの基本計画が策定され、平成 15 年には生涯学習推進センターが設置された。

また、子どもの読書活動に関しては、平成 16 年に『愛知県子ども読書活動推進計画』が策定され、図書館の子ども向けサービスの充実や、図書館間協力等の推進などが施策の方向として挙げられた。

3-1-3 一宮市の施策の流れ

一宮市においては、平成 6 年に生涯学習推進会議より『生涯学習いちのみや構想』が答申され⁹、「いつでも、どこでも、だれでも、楽しく学ぶことができる“生涯学習を大切にするまちづくり”」が求められた。そして、平成 8 年には、同答申の趣旨を活かし、市民一人ひとりの生涯学習活動を積極的に支援し、将来像として“心のゆたかさ”があふれるまち”を実現することを目的に『いちのみや生涯学習推進計画』が策定された。

また、平成 13 年 4 月に策定された『第 5 次一宮市総合計画』において、図書館を生涯学習の中核施設として整備するべく調査・研究を進め、新図書館の実現に努めることが謳われた。

これを受け、平成 14 年には『いちのみや生涯学習推進計画』の見直しが行われ、生涯学習推進体制の課題と方策として、生涯学習関連施設の整備・充実が謳われた。そして市民の学習需要の増大に対応するため、生涯学習関連施設の機能の見直しを行い、整備・充実および機能の拡大を図る¹⁰こととされ、生涯学習関連施設の機能拡大に向けた方策として、中央図書館の実現に向けた調査・研究が挙げられている。

さらに、平成 17 年度の 2 市 1 町の合併に向けて策定された『新市建設計画』においては、新市の基本方針として「教育・文化の振興“個性を育む教育・文化のまちづくり”」が挙げられており、多種多様な生涯学習機会の充実が図られている。

また、子どもの読書活動については、自主的な読書活動の推進に向け、平成 18 年 6 月には、市民意見を反映するため、公募委員を含め子ども読書活動推進懇話会を設置し、『一宮

⁹ 一宮市『いちのみや生涯学習推進計画』2002 年、p.6

¹⁰ 同上 p.32

市子ども読書活動推進計画』の策定が進められている。

	国	愛知県	一宮市
平成2年 (1990年)	生涯学習の中心核としての図書館 昭和63年2月 『新しい時代(生涯学習・高度情報化の時代)に向けての公共図書館の在り方について(中間報告)』		
	平成4年5月 『公立図書館の設置及び運営に関する基準について(報告)』	平成7年1月 『21世紀を展望した愛知県の生涯学習振興の基本方針について』答申 平成7年4月 生涯学習推進本部設置	平成8年8月 『生涯学習いちのみや構想』答申 ●本格的な生涯学習活動のスタート
平成12年 (2000年)	平成8年4月 『社会教育主事、学芸員及び司書の養成、研修等の改善方法について』 設備と運営に関する基準	平成8年3月 『愛知県生涯学習推進構想』 ●本格的な生涯学習活動のスタート	平成8年3月 『生涯学習推進計画』策定
	平成12年10月 『Lプラン21』 平成12年12月 『公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準(報告)』 ハイブリッド図書館 平成12年12月 『2005年の図書館像～地域電子図書館の実現に向けて』 平成14年8月 『子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画』 情報拠点としての図書館 平成17年1月 『地域の情報ハブとしての図書館―課題解決型の図書館を目指して―』 平成17年7月 『文字・活字文化振興法』 平成18年3月 『これからの図書館像―地域を支える情報拠点を』	平成11年1月 『愛知県における生涯学習情報ネットワークの在り方について』 平成12年8月 『愛知県生涯学習情報システム』基本計画策定 平成15年1月 『愛知県生涯学習推進センター設置』 平成16年3月 『愛知県子ども読書活動推進計画』策定	平成13年4月 『第5次総合計画』 平成14年3月改訂 『生涯学習推進計画』 ●図書館を生涯学習関連機関として位置づけ、その拡充を謳っている 平成16年7月 『新市建設計画』 平成17年3月 尾張一宮駅周辺地域再生整備事業[尾張一宮駅ビル構想] ●新中央図書館の整備、駅ビルへの導入について検討中 平成17年4月 市町合併 平成18年 『一宮子ども読書活動推進計画』策定中

図 7 図書館・生涯学習進行施策の流れ

3-2 一宮市図書館サービスの現況

3-2-1 一宮市立図書館の沿革¹¹

旧一宮市における図書館サービスは、大正4年に町立図書館が設置されたことに始まる。昭和41年には図書館創立50周年記念事業として現在地に「一宮市立豊島図書館」が建設されると同時に、繊維図書コーナーと児童コーナーとが設置された。昭和45年には敷地内に「児童文化センター」が開館し、昭和55年には「図書館別館」となった。また、同年には移動図書館車ほたる号による貸出業務も開始された。さらに、昭和55年には地域住民のふれあいと地域文化の振興を目指して、「地域文化広場」が建設された。昭和63年からは別館が視聴覚活動の拠点となり、視聴覚資料の貸出も行われた。そして、平成になると、電算システムの導入、貸出点数の変更等¹³により利用者サービスの向上が図られた。また、子どもに様々な文化活動・体験学習の場を提供することを目的とした施設として、平成15年に「子ども文化広場」が開館している。

旧尾西市においては、昭和31年に旧起町役場の一角に図書館が設置され図書の貸出しが始められた。その後、第2次尾西市総合計画（昭和51～60年度）において新図書館建設が推進されたことから、昭和56年に現尾西図書館が開館した。また、前年には現尾西児童図書館が開館しており、昭和58年に尾西図書館の分館として位置づけられた。本館・分館ともに昭和61年には電算による貸出しが開始され、平成になると視聴覚資料の貸出が行われるようになった。

旧木曽川町においては、中央公民館の図書室が図書館機能を担ってきた。住民の図書館建設に向けての要望が高まる中、平成8年に建設用地を取得したことから、平成13年に現玉堂記念木曽川図書館が開館した。図書の貸出しの他、映画上映会、作品展なども行っており、平成14年にはブックスタートと子ども放送局の放映を開始した。

なお、平成13年度からは旧一宮市、旧尾西市、旧木曽川町の2市1町で広域貸出が開始されていた。

3-2-2 施設概況

現在本市では豊島図書館・尾西図書館・玉堂記念木曽川図書館・尾西児童図書館及び図書館類似施設として、地域文化広場、子ども文化広場（以下、「6館の市立図書館」という。）と、移動図書館が運営されている¹⁴。平成17年の市町合併後に中央館としての役割を担っているのは豊島図書館であるが、人員面で館長・事務局長を配置している点、移動図書館を運営している点以外には、特に特徴的なサービスは行っていない。各館の概要については、表1の通りである。

¹¹ 以下の説明については、特記なき限り『一宮市教育委員会五十年史』及び平成17年度図書館年報による。

¹³ 電算システムの導入と併せて5冊から10冊に変更された。

¹⁴ 子ども文化広場は一宮地域文化広場管理公社により、一宮市と（財）車輛競技公益資金記念財団の補助を受けて建設され、公社による自主運営が行われている。そのため、蔵書については一宮市から使用貸借を受け、新規に購入する図書等についても、豊島図書館を通じて購入するという状況になっている。また、同公社は地域文化広場を市からの委託により運営している。

① 豊島図書館

現在の中央館である豊島図書館は、建設から 40 年以上が経過しており、老朽化が進んでいる。また、館内にはエレベーターがないなど、バリアフリー対策も不十分である。さらに、蔵書数も図書館の収蔵能力を超えているため、新たな分野の蔵書数を拡大することが困難な状況となっている。

② 尾西図書館

建設から約 25 年が経過しており、設備系統の不具合が頻繁に発生している。また、蔵書数とその収蔵能力を超えている。

③ 尾西児童図書館

児童館に併設されている。

④ 地域文化広場

建設から約 25 年が経過しており、設備系統の不具合が頻繁に発生している。

⑤ 玉堂記念木曾川図書館

平成 13 年に開館しており、施設は新しく、設備も整っている。

⑥ 子ども文化広場

施設は（財）一宮地域文化広場管理公社の所有だが、近年中に市に施設移管される可能性がある。

表 1 6館比較表(平成17年度末)

項 目		豊島図書館			尾西図書館	尾西児童図書館	玉堂記念木曾川図書館	一宮地域文化広場	一宮子ども文化広場	合 計
		本 館	別 館	移動図書館						
1 開館年月日		S. 41. 4. 6	S. 45. 5. 5	S. 55. 10. 1	S. 56. 10. 24	S. 55. 4. 1	H. 13. 4. 1	S. 55. 9. 15	H. 15. 5. 5	
2 敷地面積		2, 592. 23㎡			(H. 2. 9. 1買換え) 2, 739. 72㎡	674. 92㎡	1, 892. 92㎡	21, 166. 00㎡	1, 182. 77㎡	6 館
3 建物延面積	建築構造	3階建て	3階建て	4, 000冊積載	2階建て	2階建ての2階部分	3階建て	2階建ての1階一部	3階建て	
	延床面積	2, 304. 33㎡	612. 50㎡	L706・W226・H290	1, 835. 90㎡	275. 25㎡	2, 378. 52㎡	1, 980㎡中152㎡	1,575.19㎡中427㎡	7, 985. 5㎡
4 図書館費(単位:千円)		244,319			90,730	(尾西図書館費内)	129,154	(豊島図書館費内)	(豊島図書館費内)	464,203
	うち資料費	56,458			19,851		40,928			117,237
	うち図書購入費	47,100			15,000	〃	13,685	〃	〃	75,785
5 蔵書点数	合計	258,390	88,888		207,904	27,849	93,543	13,711	72,119	762,404
	一般図書	235,137	31,653		140,495	8,282	64,022	6,254	2,808	488,651
	児童図書	4,723	34,561		45,976	17,420	23,493	7,457	64,457	198,087
	雑誌	15,764	0		8,858	442	2,513	0	754	28,331
	視聴覚資料等	2,766	22,674		12,575	1,705	3,515	0	4,100	47,335
6 登録者数	合計	75,626	(豊島サーバー内)	(豊島サーバー内)	18,545	1,660	22,865	(豊島サーバー内)	(豊島サーバー内)	118,696
	一般	49,583	〃	〃	15,112	1,127	16,976	〃	〃	82,798
	児童	25,821	〃	〃	3,389	530	5,889	〃	〃	35,629
	団体	222	〃	〃	44	3	—	〃	〃	269
7 貸出点数	合計	430,735	137,505	70,693	403,044	42,443	363,630	32,342	356,545	1,836,937
	個人(学校含む)	430,735	113,671	70,693	396,627	40,705	363,568	32,342	349,063	1,797,404
	団体	0	16,761	0	6,417	1,738	0	0	0	24,916
	学校読書活動支援	0	7,073	0	0	0	62	0	7,482	14,617
8 貸出者数	合計	119,016	40,504	16,241	89,779	8,750	83,310	8,391	82,886	448,877
	個人	118,628	40,504	16,241	89,202	8,552	83,310	8,391	82,886	447,714
	団体	388	0	0	577	198	0	0	0	1,163
9 相互貸借	貸出	683			4	0	152	0	0	839
	借入	359			218	6	220	0	0	803
10 レファレンスサービス		3,463			817	476	3,699	(統計データなし)	(統計データなし)	8,455
	口頭	3,463			800	466	3,669	〃	〃	8,398
	電話	(統計データなし)			16	10	30	〃	〃	56
	文書	(統計データなし)			1	0	0	〃	〃	1
11 予約点数	合計	39,727			6,451	1,167	5,343	(豊島サーバー)	(豊島サーバー)	52,688
	一般	24,943			3,619	533	3,449	〃	〃	32,544
	児童	9,642			1,287	321	1,463	〃	〃	12,713
	雑誌	2,418			431	147	150	〃	〃	3,146
	視聴覚	2,724			1,114	166	281	〃	〃	4,285
12 職員数(司書)		13(6)			5(3)	0(0)	5(2)	1(0)	4(2)	24＋5
常勤臨時司書		1			4(4)	2(2)				6
臨時職員(司書)		26(4)			7(1)		14(1)	休日のみ 2(0)	平日午前3(0)、午後・土日7(0)	46＋12
13 開館日数		276日		137日	273日	267日	262日	290日	280日	
14 駐車台数		58台			27台	14台	85台		68台	
15 駐輪台数		153台			60台	30台	80台		80台	
16 収容冊数	合計	243,000	95,000	—	182,000	34,000	120,000	15,000	75,000	764,000
	開架	97,000	0	—	124,000	25,000	50,000	15,000	50,000	361,000
	閉架	146,000	95,000	—	58,000	9,000	70,000	0	25,000	403,000

※5～13の数字は平成17年度

※12の数字は平成18年度

※4の数字は平成16年度決算額(人件費含む)

(平成18年8月現在)

(出典:平成17年度図書館年報をもとに作成)

3-2-3 サービス体制

市立図書館の現在のサービス体制については、以下の通りである。

表 2 市内各館におけるサービス体制

	豊島	子ども文化	地域文化	尾西	尾西児童	木曽川
開館時間	10:00～18:00 ※夏期のみ 9:00～19:00	9:00～17:00		10:00～18:00 ※木曜日のみ 21:00 開館	10:00～17:00	10:00～18:00 ※夏期のみ 9:00～19:00
休館日	月曜 祝日の翌日 第3木曜日 年末年始 特別整理期間			月曜、 祝日の翌日 月末 年末年始 特別整理期間		月曜 祝日の翌日 第3金曜日 年末年始 特別整理期間
個人貸出	図書・雑誌は10点まで、AV資料は5点まで 複製絵画は1点まで（全て併せて10点まで） 期間は2週間（複製絵画は30日間）					
団体貸出	5人以上の読書団体に対して 1か月100冊以内					
館外郵送サービス	身体障害者（3級以上）対象に一般・児童図書 視覚障害者（6級以上）対象に点字・録音図書					

移動図書館	39ステーション、月1回巡回
-------	----------------

また、職員体制については、館長、事務局長の下に豊島・尾西・木曽川副主監（各1）が置かれ、4つのグループを管理している（図8参照）。市内全図書館における司書数の合計は、臨時職員を含めて25名である。

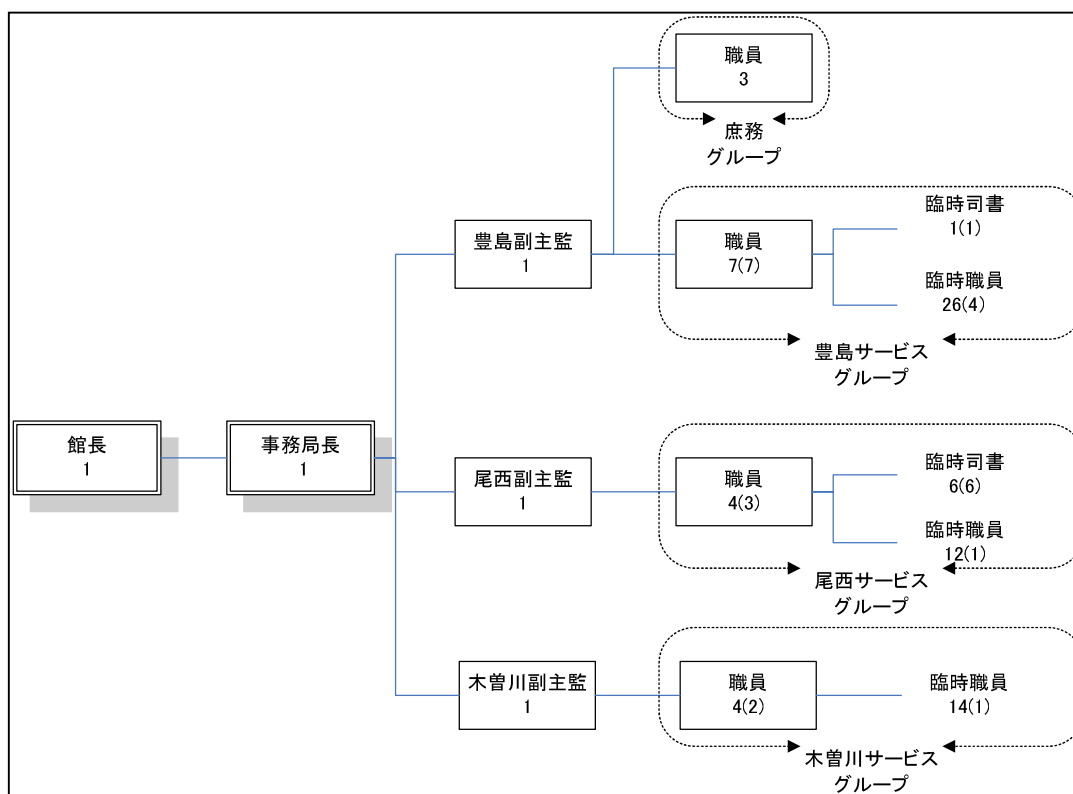


図 8-1 図書館組織図 [豊島・尾西・木曽川] (平成18年度8月時点) ※ ()内は司書数

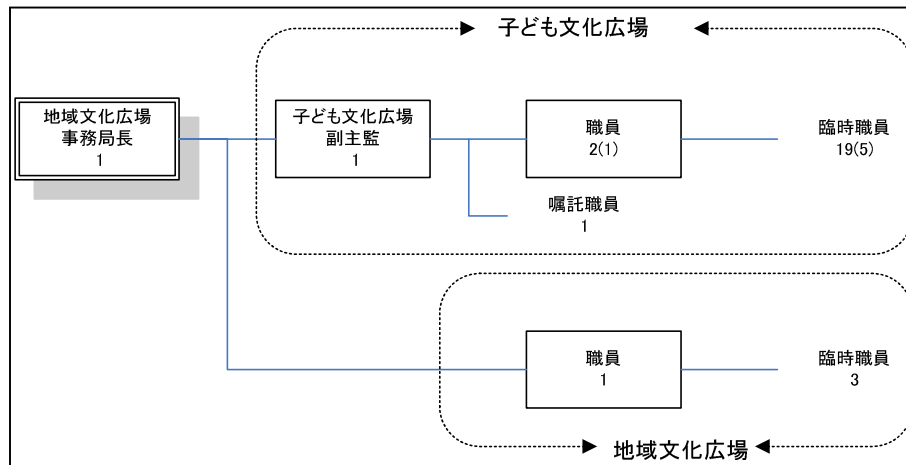
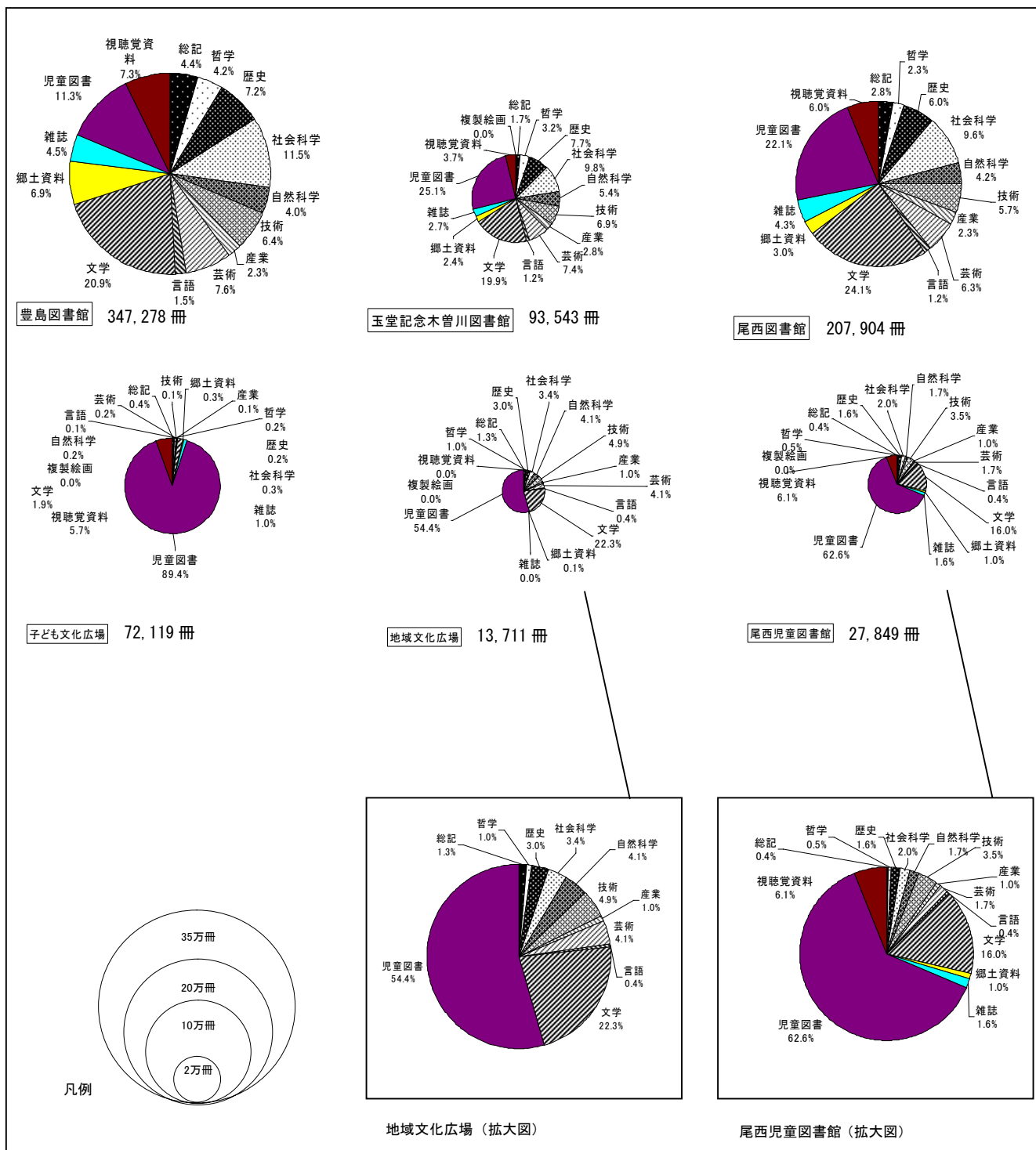


図 8-2 図書館組織図 [子文・地文] (平成 18 年度 8 月時点) ※ ()内は司書数

3-2-4 蔵書構成

市内 6 館の全蔵書数は、762,404 冊である。各館毎の蔵書数の比、及び蔵書構成を図示したものが図 9 である。豊島・尾西・玉堂記念木曽川図書館の 3 館については、豊島図書館の郷土資料の割合がやや多い(約 25,000 冊)他は、概ね似通った蔵書構成となっている。

また、特徴的な蔵書として、郷土資料に含まれる繊維関係の資料が豊島図書館に約 4,000 冊、尾西図書館に約 1,000 冊あるほか、有隣舎¹⁵から寄贈・寄託された約 1,900 冊がある。



(出典：平成 17 年度図書館年報をもとに作成)

図 9 市内各館における蔵書構成

¹⁵ 宝暦 10 年に、尾張藩儒官であった鷺津幽林によって開設された私塾。藩校の「明倫堂」とともに尾張の 2 大塾のひとつとして盛況を呈し、門下からは、大沼竹溪、佐藤牧、森春濤らを輩出したが、明治 40 年頃自然廃止。

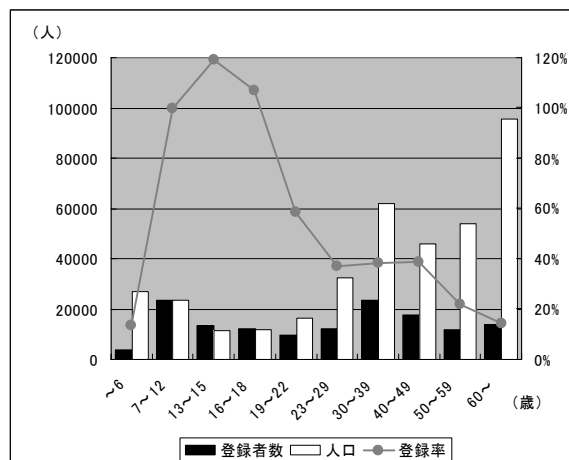
3-2-5 利用状況

1) 登録状況

登録者数は 118,696 人と、市内人口の 31.3%が利用登録を行っている。

登録率が高いのは 7～12 歳、13～15 歳、16～18 歳で、これは旧一宮市の学校図書室と市内図書館の貸出カードの共通利用が行われているためと考えられる。逆に登録率が低いのは 60 歳以上で、50～59 歳がそれに次ぐ。特に 60 歳以上の登録率については約 15%と、非常に低くなっている。登録については、学生が多く、高齢者が少ないという状況が見られる。

項目	定義	指標
登録率	登録者数／人口	118,696／378,725＝ 31.3（％）
登録者 1 人当たり		
蔵書冊数	蔵書冊数／登録者数	762,404／118,696＝ 6.4（冊）
貸出冊数	貸出冊数／登録者数	1,836,937／118,696＝ 15.4（冊）
蔵書回転率	貸出冊数／蔵書冊数	1,836,937／762,404＝ 2.4（回）



（出典：平成 17 年度図書館年報をもとに作成）

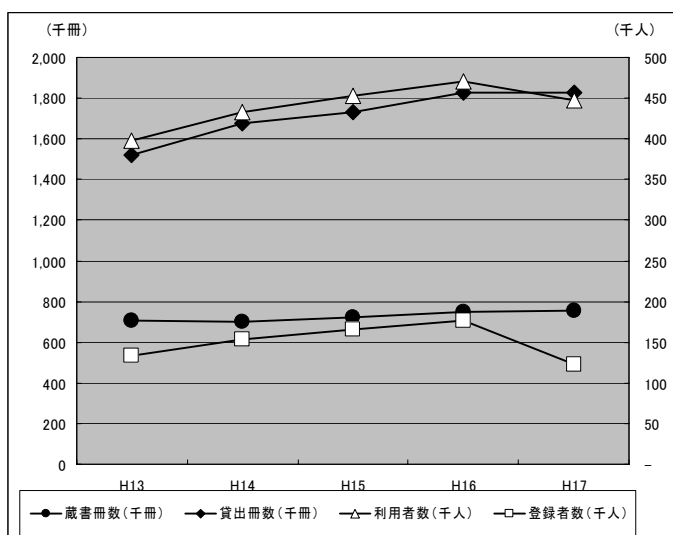
※人口よりも登録者数の多い年代については、重複登録及び市外登録者数が含まれるためと考えられる。

図 10 年代別人口・登録者数（平成 17 年度）

2) 貸出状況

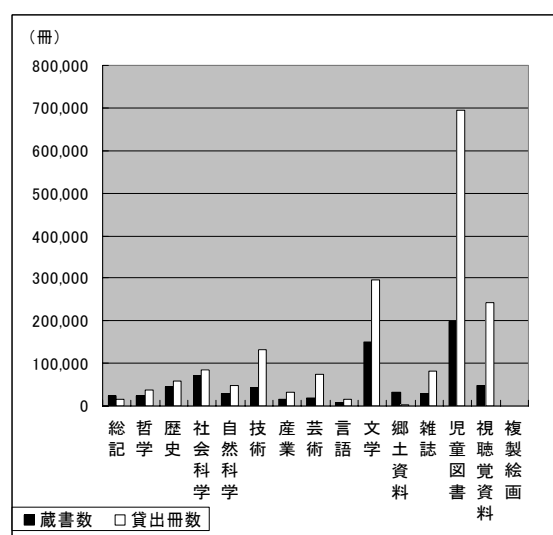
蔵書冊数の増加に伴い、貸出冊数も増加傾向にあるが、合併に伴う蔵書管理システムの統合により、登録者数・利用者数については、平成 17 年度は減少している。

また、分類別の貸出状況については、児童図書が最も多く、次いで文学、視聴覚資料となっている。特に児童図書と視聴覚資料については、蔵書数に比べて貸出冊数が大幅に多くなっている。



（出典：平成 17 年度図書館年報をもとに作成）

図 11 利用の推移（平成 17 年度）



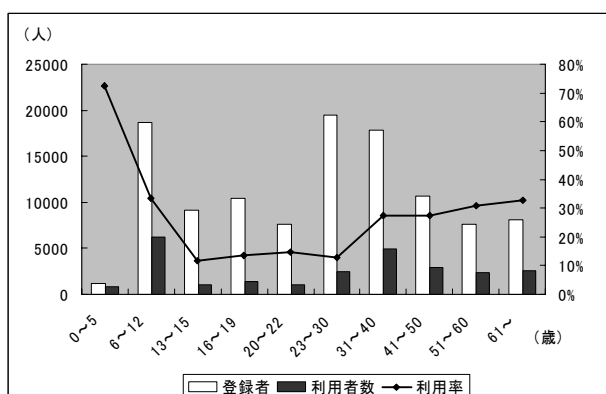
（出典：平成 17 年度図書館年報をもとに作成）

図 12 分類別蔵書数・貸出冊数（平成 17 年度）

平成 16 年度に豊島図書館で実施したアンケート結果をみると、年齢別の利用者数では、

小学生の 6～12 歳が最も多く、次いで 31～40 歳代が多くなっている。

また、利用率¹⁶については、0～5 歳が最も高く（登録者の 7 割以上が利用）、31 歳以上は概ね 3 割の利用率がある一方、中学生から 20 代の若い世代の利用率が低い結果となっている。



（出典：平成 16 年度『豊島図書館利用者アンケート調査』報告書をもとに作成）

図 13 豊島図書館年齢別登録者数・利用者数・利用率（平成 16 年度）

3-2-6 図書館情報システム

図書館情報システム及び MARC は、平成 17 年の市町合併を機に下記に統一された。

- ・ システムソフトウェア：NEC ネクサソリューションズ（LiCS-RⅢ）
- ・ MARC：TRC MARC

3-2-7 市外とのネットワーク

1) 東海地区図書館協議会による相互利用

東海地区では、東海地区図書館協議会による相互利用が充実しており、「資料相互利用に関する協定の制定 2005 年 5 月 11 日」に基づき、愛知県、岐阜県、三重県、静岡県にまたがる公立図書館、大学図書館計 76 館（平成 18 年 4 月現在）が相互利用を行っている¹⁷。うち、地方公共団体は 57 館加盟している。

2) 岐阜・三重・富山県—愛知県間の相互利用

愛知県内においては、県立図書館は岐阜県立図書館・三重県図書館・富山県立図書館との間に定期便を設置しており、それぞれの県内の各市町村立図書館が個別に相互貸借を行うのではなく、各県立図書館を中継地として資料が一括して送られる仕組みとなっている。愛知県図書館を始め、県内の市町村立図書館 75 館及び分館 16 館の計 92 館（平成 17 年 4 月時点）が加盟し、岐阜・三重・富山県との相互利用を行っている。

3-2-8 学校支援

学校との連携については、蔵書検索システムを利用した小中学校読書支援事業を推進し、「朝の読書」や「調べ学習」への図書資料の提供等が行われている。また、団体貸出による

¹⁶ 利用者数を登録者数で除したもの。

¹⁷ 東海地区図書館協議会のホームページより。

支援や、移動図書館の配車等により、子どもの読書環境の整備に向けた支援が行われている。

3-3 駅ビル建替え構想

3-3-1 尾張一宮駅周辺地域再生整備事業

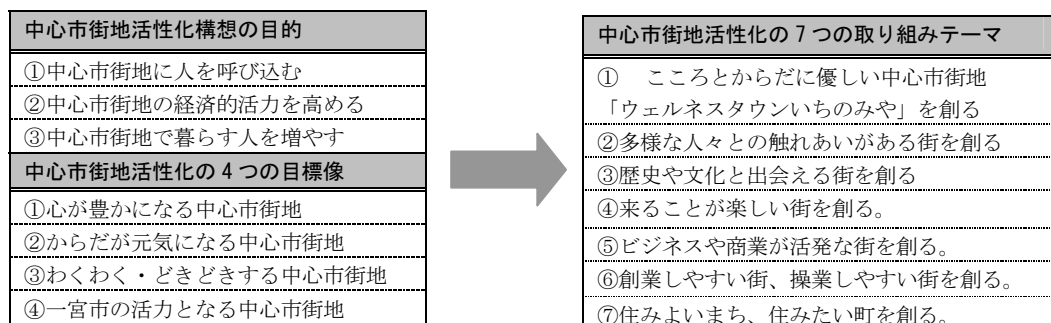
一宮駅周辺では、建設から 50 年以上経過した JR 尾張一宮駅舎の老朽化が進んでおり、有効な土地利用・施設の利用、市の玄関口としてのイメージの向上などの観点から、更新を望む市民の声が高まっている¹⁸他、一宮市経済を長年にわたり支えてきた繊維産業の低迷や、郊外部における巨大商業施設の立地などを背景として、従来の中心市街地にあたる尾張一宮駅周辺地域では都市機能の相対的な衰退、特に商業機能の低下が顕著となっている¹⁹。そのため、平成 12 年には『中心市街地活性化基本計画』が策定され、一宮駅を含む 180ha の中心市街地において様々な活性化事業の展開が図られたが、中心市街地における中小小売り商業を取り巻く環境は依然として厳しい状況となっている。

そうした中、平成 16 年 6 月に地域再生計画『駅周辺のストックを活かした「歩いて暮らせる中心市街地にぎわい再生計画」』の認定を受け、その支援策である地域再生マネージャー事業の活用により、「尾張一宮駅周辺地域再生整備事業」による中心市街地活性化を進めている。

この事業の中で、尾張一宮駅周辺地域を質の高い都市サービス拠点として、また、既存の商業者・事業者の再活性化と共に新たな経済活動を産み出す拠点とするために、中心市街地活性化事業を進めるとともに、中心市街地のシンボルとなる尾張一宮駅ビル建設の計画を推進している。

1) 中心市街地活性化構想について

中心市街地活性化事業の実施にあたっては、平成 16 年度にそのマスタープランとなる「中心市街地活性化構想」が策定され、4 つの目標像、7 つの取り組みテーマ（図 13 参照）が掲げられた。これらの目標像、テーマ等においては「健康」がキーワードとなっており、「市民の健康増進に貢献する中心市街地」を形成し、一宮市全域における「ここからだが健康なまち＝ウェルネスタウンいちのみや²⁰」を形成することを目指した取り組みがなされている。



（出典：平成 16 年度『尾張一宮駅周辺地域再生整備事業報告書』をもとに作成）

図 13 中心市街地活性化構想の目標及びテーマ

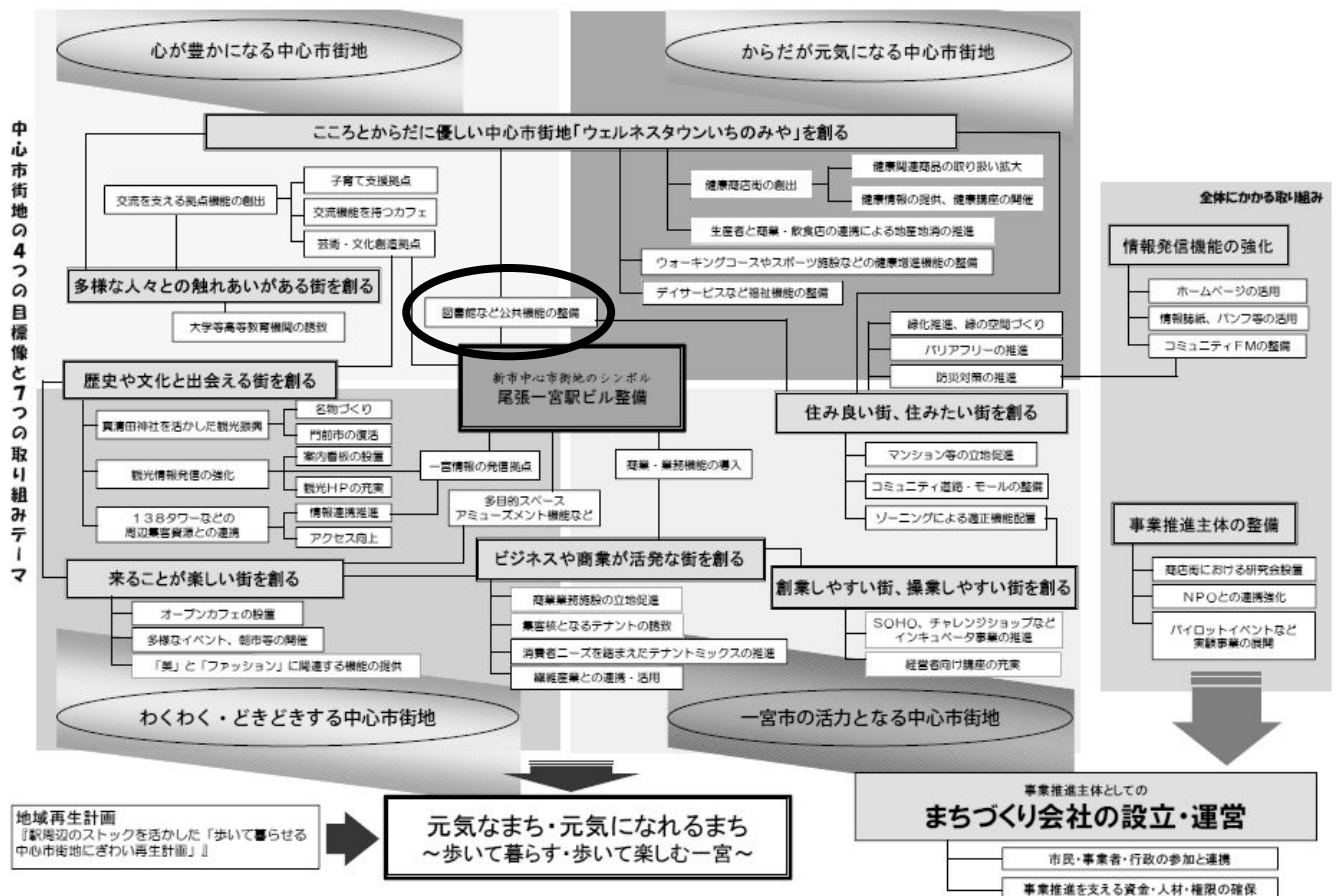
¹⁸—一宮市「平成 17 年度尾張一宮駅周辺地域再生整備事業 報告書」2006 年，p.1

¹⁹ 同上

²⁰ 「ウェルネスタウンいちのみや」とは、美しく健やかなここからだの形成を支援するまち、一宮独自の文化や産業を生み出すにぎわいのあるまち、安全・快適で良好な生活環境のまちのことを意味している。

そして、7つの取り組みテーマに沿って、下記のように、中心市街地活性化事業体系図（図14参照）を作成し、各事業の実施、検討を進めている。

活性化事業の実施にあたっては、尾張一宮駅を中心市街地の活性化・賑わいの創出と、そのシンボルとなる尾張一宮駅ビルが施策の二本柱となっており、駅周辺のストックを活かし、「健康商店街研究会」の立ち上げ、チャレンジショップ・SOHO オフィスの運営、オープンカフェの設置などの事業を進めるとともに、尾張一宮駅ビル事業の事業化検討等が行われている。



（出典：『平成16年度尾張一宮駅周辺地域再生整備事業報告書』より）

図14 一宮市中心市街地活性化事業体系図

2) 尾張一宮駅ビル構想について

平成16年度には、市民アンケート及び中心市街地活性化推進協議会での意見、ならびに導入が想定される公共施設を踏まえた上で、駅ビルに求められる機能等が検討され「一宮市による尾張一宮駅ビル構想（案）」（表3参照）が策定されるとともに、公共施設の導入についての検討が行われた。さらに、翌年度には、基本構想並びに民間事業者のヒアリング結果を踏まえ、施設内容が設定された（表4参照）。施設の規模・機能等については、今後、具体的な施設計画の検討を進めていく予定である。

表 3 尾張一宮駅ビル構想（案）の骨子

駅ビル整備の目的 ■ 38万都市／新市・一宮の顔となる駅前にふさわしい景観の形成 ■ 中心市街地活性化＝ウェルネスタウン実現の一翼を担う拠点の形成 ■ “遊び心”と“夢”のある賑わい空間の形成
駅ビルに求められる機能 ■ 交流 多種多様な世代・主体が交流・参加する場 ■ 育成 人・文化・産業を育成する場 ■ 支援 市民生活・地場産業をサポートする場 ■ 創造 一宮の新たな価値を創造・発信する場 ■ 集客 外部から人を集め、中心市街地へ流入させる場
事業の前提 ■ 一部公共施設を導入するものの、安定的・継続的に自立運営が可能な施設
施設構成の考え方 ■ 駅の利便性を活かした機能性の高い施設の導入が必要 ■ 集客力やテナント誘致を強化・誘発するために、来訪者の回遊性、施設間の相互交流を高める施設構成・動線計画が必要 ■ 安定的・継続的に賃料収入が得られる施設の導入が必要

（出典：『平成 16 年度尾張一宮駅周辺地域再生整備事業報告書』をもとに作成）

表 4 導入機能

区分	施設	内容	規模
公共公益施設	市立図書館	・新市の中央図書館にふさわしい機能・設備の充実した施設	約7,000㎡
	市民活動支援センター	・市民活動団体等の情報発信や交流・活動拠点となる施設	300㎡
	子育て支援センター	・乳幼児連れの親子が自由に交流できる場や、子育て情報の提供、子育て相談等、多様な子育て機能を備える拠点施設	400㎡
	観光案内所	・観光案内、イベント情報や特産品の販売等を行い、一宮市を広くPRする施設	40㎡
	一宮駅交番	・市民の安全、地域の治安の確保を図るとともに、市民サービス機能としての施設	100㎡
民間施設	商業	・中心市街地や隣接する百貨店・商業施設とは異なる商業テナントの誘致	1,050～1,190㎡
	フィットネス	・ジム、スタジオ、プールを備えた施設	0～2,900㎡
	事務所	・民間テナント、商工団体、大学のサテライトキャンパス（一部、多目的ホールとしての利用を想定）	2,490㎡
	ホテル	・市内・地域におけるビジネスシーンをサポートするホテル（宿泊特化型で一部セミスイート等を導入）	4,025㎡
駐車場		・施設全体のための自走式立体駐車場（最低限の付置義務台数を確保）	4,895～5,705㎡

（出典：『平成 17 年度尾張一宮駅周辺地域再生整備事業報告書』をもとに作成）

3-4 市民要望

平成 16 年度から 18 年度にかけて実施されたアンケートをもとに市民要望を整理する。

3-4-1 『豊島図書館利用者アンケート調査』(平成 17 年 2 月実施)

市町合併後の図書館同士の連携を密にし、サービスの向上を図るために、豊島図書館においては利用実態や意向・要望を把握するための来館者調査が行われた。

調査では、市外からの来館者が約 7%を占めており、その利用目的としては会社関係や営業関係の利用が多い結果となっている。また、主な交通手段としては、自転車・自動車での来館が全体の約 90%を占めている。充実して欲しい図書としては、「趣味・娯楽書」、「文学書」が多く挙げられており、自由意見においては会社関係等の専門書の充実、マンガ、ヤングアダルト向けの図書等への要望が見られた。充実して欲しい視聴覚資料に関する設問においては無回答が約 2 割で、よく利用する部屋についての設問で視聴覚室は最下位である他、自由意見においても試視聴室を知らなかったとの意見も見られる。

また、施設・設備に関する自由意見としては、グループで話し合いや議論を出来る場、パソコンを利用できる設備、学生以外を対象とした学習室、駐車台数の改善等への要望が見られる。

3-4-2 『第 6 次一宮市総合計画市民アンケート調査』(平成 17 年 11 月実施)

平成 17 年度の市町合併を受け、新しい一宮市の総合計画(第 6 次一宮市総合計画)を策定するにあたり、市民の考える「住みよいまち・住みたいまち」を明らかにするため、住みよさのキーワードの優先度と生活課題の重要度が測定された。

図書館については、「《ふれあい》地域の人と人がふれあい、文化を大切にする一宮市」というキーワードにおいて触れられており、「図書館が充実しており、一宮市にゆかりのある図書も豊富に収蔵され、世代を超えて活用し楽しんでいる」ことが重要とする回答が全体の 32.3%であった。これにより、市民の間では図書館は資料・情報の拠点としての機能だけでなく、に交流・文化の拠点としての機能が望まれていることが分かる。また、自由意見においては、開館時間・職員の対応・施設規模・開架冊数・検索システム・駐車台数等の改善に対する要望が見られた。

3-4-3 『(仮称) 中央図書館整備基本計画に関するアンケート調査』(平成 18 年実施)

アンケート結果の概要を記述。

3-5 中央図書館整備にあたっての課題

アンケート結果を踏まえ、
再記述予定。

3-5-1 現行図書館の問題点と課題

1) 市域全体のネットワークの充実

① 市内全域における一元的なサービスの提供

本市は、平成 17 年度に 2 市 1 町が合併したため、それに伴い図書館サービスの対象地域も拡大した。合併にあたっては、図書館システムの統一、移動図書館のサービスステーションの追加²¹が行われたが、サービスの提供は依然として合併前の 3 地区に分かれて行われている。今後は、市域全体の図書館ネットワークを形成することにより、市内全域における一元的なサービスの提供を図る必要がある。

② 中央図書館を中心とした市内図書館ネットワークの形成

市町合併後は、豊島図書館が中央館としての役割を担っているが、館長・事務局長を配置している点、移動図書館を運営している点以外には特に特徴的なサービスは行われていない。今後は、中央図書館を市内図書館の中核に位置づけることにより、市内図書館ネットワークの形成、ネットワークに基づいた図書館間の協力体制の確立を図る必要がある。

③ 各図書館の役割分担、蔵書構成、サービスの見直し

図書館サービスの対象地域の拡大と共に、中央館、地域館それぞれの役割についても見直す必要がある。現在、豊島・尾西・木曽川の 3 館においては、ほぼ横並びのサービスが展開されている。また、豊島・尾西の 2 館においては、蔵書冊数が収蔵能力を上回るという状況も見られる。中央図書館の整備を機に、各館の役割、蔵書構成、サービスについて検討し、効率的な図書館運営を図る必要がある。

④ 市外図書館や学校、関連施設との連携の充実

現在は、合併前の図書館ネットワーク体制が残っており、その中核となる図書館が明確でないことなどから、市外図書館や市内関連施設との連携も十分ではない。今後はこれらの施設との連携を強化することにより、より充実したサービスの提供、サービスの質向上を図る必要がある。また、子どもの読書活動や学習活動の推進に向け、学校図書館に対する支援についても積極的に行っていく必要がある。

2) 市民の多様な学習ニーズへの対応

① 高度で専門的なサービスの充実

現在、豊島・尾西・玉堂記念木曽川の 3 館においては、貸出サービスの他、読み聞かせ、講座・講習会、除籍資料のリサイクル、中学生の職場体験学習等、ほぼ横並びのサービスが提供されており、蔵書構成も概ね似通っている。今後は、中央館として、市内全域の市民を利用対象とした、より高度で専門的な図書館サービスの提

²¹ 平成 17 年度より 3 ステーションが追加された（尾西地区：開明小学校・朝日西小学校、木曽川地区：木曽川東小学校）

供について、その提供方法、豊富な情報量の確保等について検討の必要がある。

② 高度情報化への対応

現在、豊島・尾西・玉堂記念木曽川・子ども文化広場にはそれぞれ web ページの閲覧を目的としたインターネット端末が設置されている。しかし、各館 1 端末ずつの設置であるため、その数が不足している。また、その利用能力を持つ人と持たない人との間におけるデジタル・ディバイド²²の発生も懸念される。今後はこれらの問題に配慮しつつ、情報通信技術の効果的な活用について検討の必要がある。

③ 国際化への対応

社会の幅広い分野における国際化の進展と共に、本市においても市民が国際理解や多文化理解を深めることが必要とされている。また、本市は県内で 8 番目に外国人登録者数の多い市であることから、図書館においても在留外国人のためのサービス提供が不可欠と考えられる。しかし、現在、外国語による利用案内書等は設置されていない。今後は市民の国際教育への貢献、外国人をはじめとする様々な文化的背景を持つ人を対象にしたサービスの展開についても検討し、幅広い市民の学習ニーズに応えることが課題となる。

④ 図書館に来館出来ない市民への対応の充実

現在、豊島図書館においては、移動図書館の運営及び、障害者に対する郵送サービスが行われている。しかし、障害者の他にも、自宅からの外出が難しい高齢者、病院・養護施設・老人ホーム・介護施設等の入所者も図書館の利用が困難と考えられる。今後の高齢化社会の進展により、これらの図書館へ来館出来ない人々も増加すると考えられることから、こうした人々への対応の充実についても課題となる。

⑤ 市民の多様なニーズに対応出来るスタッフの配置

市内部の異動等の関係で、図書館では長期にわたり経験を積んだスタッフが不足している。資料の選択、組織化、利用者からの相談への対応などは、専門的教育を受けた上で現場経験を積むことにより、的確に行うことが可能となる。今後は、市民の高度かつ多様なニーズに対応するため、有資格者かつ経験を積んだ職員の充実した配置についても検討の必要がある。

また、より高度なサービスの提供に向け、ビジネス・福祉・多言語等の能力を持つスタッフの配置も望まれる。

3) 地域の課題の解決に向けた取り組みの充実

近年、図書館には地域の課題解決拠点としての役割が望まれつつある。本市においても少子・高齢化、産業構造の変化、コミュニティの希薄化、外国人登録者数の増加等

²² インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者の間に生じる格差。

の影響による諸課題について、図書館サービスとして対応を充実していくことが必要である。

例えば高齢化対策については、図書館は高齢者が地域社会に参加する際に最も参加しやすい場の1つと考えられている²³が、市内の60歳以上人口の図書館利用登録率は約15%と非常に低く、高齢者のニーズに合った講演会、講座等が的確に開催出来ない状況にある。

今後は、図書館を舞台に市民が学習活動や文化的活動を進めることにより、地域の課題の発見・解決へとつながるような仕組みづくりを行うことが課題となる。

3-5-2 駅ビル図書館としての課題

1) 駅ビルとしてのポテンシャル

尾張一宮の駅前の立地特性は以下のように整理できる。

- ① JR、私鉄3路線とバス網が集中し、通勤、通学、買い物等の利便性が高い。
- ② 駅利用者数が市内で最大である。
- ③ 市内最大の商業集積地である。
- ④ 一宮市役所が近く、周辺の公共公益機能が集積している。
- ⑤ 尾張の「一の宮」である「真清田神社」の最寄り駅である。

2) 中心市街地活性化への寄与

表3に示した駅ビル整備の目的にもある通り、尾張一宮駅ビル事業は、中心市街地活性化に資する拠点形成の役割を担っている。その一機能として図書館の導入が検討されていることから、中央図書館の空間・サービスには以下の役割が期待されている。

① 交流の場としての役割

多種多様な世代・主体が交流・参加する場として、他の公共公益機能や民間施設との連続性、一体性のある空間形成やしかけづくりが必要。

② 育成・支援・創造の場としての役割

人・文化・産業を育成する場としての役割、市民生活・地場産業をサポートする場としての役割を担うことが必要。また、一宮の新たな価値を創造・発信する場として、情報提供空間としての機能だけでなく、情報を提供するサービスの充実が求められる。

③ 集客装置としての役割

外部から人を集め、中心市街地へ流入させる場として、初めて一宮を訪れる人たちへの多様な情報提供や、これまで図書館を利用していなかった市民も日常的に利用したくなる魅力ある情報提供やサービスを充実する必要がある。

²³ 小田光宏『図書館サービス論』社団法人日本図書館協会、2005年、p184に詳しい。

3) 他都市の駅前図書館の事例

近年、駅前の複合施設内に図書館の入る事例が多く見られる。それらを以下に示す。

① 相模原市立橋本図書館-マルチメディア情報センター²⁴（神奈川県、JR・京王線橋本駅）

橋本駅北口直近の再開発ビル「ミウイ橋本」に平成13年9月に開館した。ミウイ橋本は、地下1～5階が民間商業施設、6～9階が公共施設となっており、図書館は6階に位置している。マルチメディア体験室や研修室におけるパソコンの開放の他、特徴的なサービスとして、起業家の自立や新事業の創出、地域経済の活性化の促進に向けたビジネス支援が行われている。

- 有料データベース（日経テレコン）による情報提供
- ビジネスコンサルティング（NPO St-ART に委託）
- ビジネス支援コーナーの設置
- ビジネスに関するレファレンスの実施

② 静岡市立御幸町図書館²⁵（静岡県、静岡鉄道新静岡駅）

再開発ビル「ペガサート」の4、5階部分（2,094 m²）にある図書館で、平成16年9月に開館した。従来の地域図書館としての機能を受け継ぐ一方で、同ビル6、7階に併設されている静岡市産官学交流センターと連携することなどにより、以下のような高度なサービスの提供が図られている。

- ビジネス支援サービス
- 郷土の産業・企業に関する資料の提供
- 多言語サービス

③ 結城市立ゆうき図書館²⁶（茨城県、JR 結城駅）

結城市民情報センターに併設された図書館で、平成16年5月に開館した。同センターには図書館の他にキッズスペースや多目的ホールなどがある。市民のための複合施設として「人と人、人と情報の交流を通して地域活性化を図ること」が施設全体の基本的な考え方とされ、図書館はその中心的施設としての役割を担っている。地域活性化を目指した情報提供を行うために、以下のようなサービスが提供されている。

- 貸出用ノートパソコン 110 台（インターネット、DVD 閲覧用）
- オンラインデータベースの無料提供
- 雑誌タイトル数 400 誌以上

²⁴ 詳細については、<http://www.lib.sagamihara.kanagawa.jp/hashimoto/index.html> 参照のこと。

²⁵ 詳細については、<http://tosho.city.shizuoka.jp/toshokan/miyuki/information.htm> 参照のこと。

²⁶ 詳細については、<http://www.lib-yuki.net/index.html> 参照のこと。